令和４年度（２０２２年度）

社会福祉法人　いなほ福祉会

就労継続支援Ｂ型事業　いなほ作業所　事業報告書

１．事業所所在地

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町中里５７５
電話　０７３５－５７－０３３４
FAX　０７３５－５７－０３３５

２．基本方針

基本方針である「障害の状況に配慮しつつ利用者が働く中で、その能力をいかんなく発揮し、生産活動をとおし社会的貢献や働く喜び、充実感を感じ取ることで、自らの存在価値を確認し、社会的自立をめざします。また、一人ひとりが互いに人格を尊重し、相互に助け合う集団づくりを通し豊かな成長をめざします。作業所生活を通して経験や生活の幅を広げ、豊かで充実した生活につながる支援を心がけます。」の基、実践に努めました。

３．利用定員と利用実績（令和５年３月末日）

定員　４０名　　利用登録者　４０名

利用月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3	合　計
開所日数	21	21	22	21	21	21	21	21	21	20	20	23	253 日
延利用人数	801	779	823	743	778	755	762	770	733	673	698	792	9,107 人
１日平均	38.1	37.1	37.4	35.4	37.0	36.0	36.3	36.7	34.9	33.7	34.9	34.4	36.0 人

※令和３年度 ＝ 38.4 人

４．職員体制（令和５年３月末日）

	配置基準	常勤換算	内　訳	
			常勤(人)	非常勤(人)
管理者	1	０．８		1
サービス管理責任者	1	1	1	
職業指導員	5	７．３	2	１０
生活支援員	1	2	2	
目標工賃達成指導員	1	1	1	
調理員		１．５		3
送迎員		０．８		3
嘱託医	（1）	（1）		（1）
計	9名	１４．４名	6名	１７名

５．重点方針の結果

（１）成人分野共通方針

①成人分野事業所での共通した課題を協働して取り組んでいきます。

・「ワークショップゆう」移転プロジェクトチームを中心に、移転に向けた検討や取り組みをすすめます。

→「ワークショップゆう」移転プロジェクトチームを中心に、建設場所の選定から、図面の見直し等、移転に向けた検討や取り組みをすすめました。

・業務継続計画（ＢＣＰ）の内容を深めていきます。

→業務継続計画（ＢＣＰ）について、各委員会で話し合った内容を検討し、作成に向けてすすめました。

・身体拘束等の適正化を図る取り組みを充実させていきます。

→虐待防止委員会で検討し、「身体拘束説明書・同意書」の検討や、「虐待防止のための指針」等の作成をすすめました。

②新たな職員配置や役割のもと、体制の安定や事業所運営の充実をすすめます。

・代交代や役割の見直しを通し、体制強化を継続していきます。

・職員の役割を見直し、それぞれの役割の自覚や主体性につなげ、事業所運営の充実へとすすめていきます。

→前年度と比べて大きな職員の異動や役割変更はありませんでした。正規職員の役割りや事業所運営の携わる事への問題意識のためにも、主任級以上の管理者会議を定期的に実施する必要があると感じました。

③福祉専門職員としての人材育成をすすめます。

・今後の事業展開をすすめていくためにも人材育成や事業を担える人材の確保が課題であるため、人材育成の強化を継続します。

→実践の質を高めたり、事業展開をしていくためには、実践を任せられる人材の確保が重要であります。今後も利用者を主体とした実践や支援の質の向上となるよう、人材育成が継続した課題となります。

④法人理念を大切にしながら、法令遵守への意識や認識を深めていきます。

・法人理念の実現のために、社会的信用を確保することを目的に、法令遵守への意識や認識を高めていきます。

・指導監査ガイドラインの理解を深めます。

→指導監査が４年ぶりに成人分野３事業所で実施され、大きな指導等も無く、無事に終わることができました。今後も事業所内の内部監査を通して法令遵守への意識や認識を高める機会へとつなげていく必要があります。

（２）いなほ作業所　重点方針

①作業の効率化を図り、利用者が安心して働ける作業所作りを目指します。

・商品の品質向上に対しては、利用者にしっかりとした見本を見せるとともに、具体的な方法を伝え進めながら、良いものおいしいものを作るという意識を高めている最中です。
・衛生についてはいろいろな面で向上しています。どうやって清潔を保つか、どういう整理や清掃が必要なのかまで踏み込んで取り組みました。
・新型コロナの影響や物価高騰による経営の苦しさに直面しているなか、商品の値上げや商品構成を変更したにもかかわらず、市場からは安くておいしいパンという評価をよくいただいています。また、３年ぶりにパン祭りを開催できたことは喜ばしいことです。
・物品販売に取り組むとともに、那智勝浦町からの依頼での長期保存商品納入や委託事業など、地域貢献も含めて取り組めました。

これら効率良く作業を進めることで職員のゆとりを生み出していこうとしたが、結果的には事業収入や仕事が増えて余裕はなくなり、人員的にも新型コロナ感染の予防や感染者隔離などで職員の多くが長期休暇や数日の休みを取ることが繰り返され、欠員状態を回すシフトでさらに余裕なく過ごしました。

良い点としては、忙しくも必然的に利用者とともに働くことが出来ました。
新型コロナウイルスの感染リスクが落ち着きを見せたため、通常の業務に戻しながら過ごした１年でした。

昨年に続き廃棄ロスや材料仕入れの無駄を省くことなどに取り組み、利用者の給料確保に取り組んだ結果、年度末手当を出すことが出来、平均工賃２万円を達成することが出来ました。

②中里出張所と下里出張所では、安心して仕事ができる静かな環境を整え、各自の年齢や障害特性に応じた活動内容の充実を図りました。

中里・下里出張所では、本体の様な大きな集団が苦手な利用者が「静かな環境で過ごしたい」という思いや「自分のペースで出勤したい」といった、一人一人、違うニーズの多様性を尊重し、精神的に安定して過ごせるよう環境設定をしています。

利用者の対応に当たっては、職員も限定し、数人の職員が、曜日で交代し、できるだけ変化のないよう配慮しています。また、それぞれの特性や課題に対する情報と、個別に対応することができる余力を大事にしながら、各自の年齢や、障害特性に応じた仕事や、活動内容を模索していくことが重要であると思っています。

下里出張所で利用者の一人が不安定になり、周りの利用者もその利用者の言動に敏感になり、影響がでてきたことがありましたが、職員間で情報を共有し、対応を統一するなどして、支援にあたりました。

この事を踏まえ、今後も、出張所の利用者が、安心して、自分らしく過ごせるよう、職員がチームとして連携し、丁寧な支援が行えるよう、情報共有と意思統一を行っていきたいと思います。

〔事業・運営・研修〕

①職員研修を充実させ、支援の質の向上を図ります。

職員研修は、それぞれの経験年数や任務分掌に基づき、各種団体の研修を予定していましたが、コロナウィルス感染拡大により中止が相次ぎ、計画通りの実施はできませんでした。

②家族向け学習会の実施。

今年度は、各種学習会の実施に至りませんでした。

６．利用者への提供サービス

（１）〔 個別支援計画に基づいた支援の実施 〕

個別支援計画・モニタリング等の実施時期について、年間スケジュールを作成し、抜け落ちの無いよう実施時期の把握に努めました。

一連の流れを整理してファイリングし、全体として把握しやすくなりましたが、支援や課題解決を図っていく活動はまだ弱いと言えます。

日常の製パン・販売に加え、コロナ対策を考えながらの活動で多忙となっていますが、利用者の様々な力を引き出し、自立に向けて支援を的確に行い、「個別支援計画」を柱とした支援を確立していきたいと考えています。

（２）〔 日 課 〕

「令和４年度事業計画書」のとおり実施を予定していましたが、コロナ禍で行事等の中止が相次ぎました。

平日は、製パン販売に追われるため、毎月第３土曜日（行事等により他の土曜日に変更有り）を活用し、作業以外の余暇活動を行ってきました。

土曜取り組みは、参加は利用者個々の判断（選択と決定）にゆだねています。興味のある活動内容には参加する等、自身で参加を判断するようになっています。多くの利用者が参加したくなるような企画を検討し実施してきました。

実施月	取り組み内容	参加利用者
４月１６日	土曜開所（ハンバーガー作り）	２１名
５月２１日	土曜開所（外遊び[グリーンピア]）	２３名
５月２８日	つくしんぼ歌謡祭	２７名
７月２３日	土曜開所（ＤＶＤ鑑賞、かき氷）	１９名
８月２７日	土曜開所（積み上げゲーム大会）	１８名
９月１７日	土曜開所（バーベキュー大会）	１８名
１０月１５日	土曜開所（山歩き、外で楽しく遊ぼう）	２０名
１０月２１日	日帰り作業所旅行（太地・串本）	３５名
１１月　５日	新東リモート交流会	２１名
１１月１９日	パンまつり	３２名
１２月　２日	店舗７周年セール	３６名
１月２１日	土曜開所（利用者新年会）	１７名
２月１８日	土曜開所（書初め＆ハンバーガー作り）	２３名
３月　４日	福祉健康まつり出店	２名
３月１８日	土曜開所（ボウリング＆ランチ）	２１名
合　計	土曜開所９回(前年度７回)／その他６回	３３３名

（３）〔就労支援事業・収支実績〕

製パン、製菓、軽作業（リネン作業、物品販売、お茶の袋詰め販売、コーヒー販売、図書館ブックカバー、パッケージ組立て）

	2020(R2)年度実績	2021(R3)年度実績	2022(R4)年度実績
年間売上金額（A）	25,482,750 円	23,789,805 円	26,640,391 円
年 間 経 費 （B）	24,713,266 円	23,958,316 円	25,519,544 円
年間利益（A－B）	769,484 円	－168,511 円	1,121,167 円

（４）〔工賃支給実績〕

	2020(R2)年度実績	2021(R3)年度実績	2022(R4)年度実績
平均工賃月額	18,935 円	19,497 円	20,001 円
時給換算額	211 円	216 円	231 円
年間工賃総額	9,940,940 円	9,787,640 円	9,760,515 円
年間支払対象者数	525 人	502 人	488 人
利益の分配額			基本 7,500 円／人

（５）〔生活支援〕

コロナウィルス感染防止に伴い、宿泊体験実習（平見ハイツ）は実施できませんでした。

（６）〔健康管理〕

年１回の健康診断を実施しました。

第１回　→　６月２７日

作業所給食では、栄養のバランスを考えた給食を提供し、食事を通した健康増進にも務めました。

（７）〔 通 所 〕

一部、串本方面（有田・田並・串本）５人、宇久井２人、新宮市１人の電車利用者と自力通所者２名を除き、作業所送迎車両による完全送迎を実施しました。

（８）〔利用者自治の育成〕

利用者自治会については、利用者企画による作業所旅行や新年会などを実施しました。

自治会の開催　３回（令和３年度３回）

７．利用者のプライバシー確保（個人情報管理）

人権擁護の立場から個人のプライバシーの保護並びに配慮を徹底しました。

職員は正当な理由なく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を第三者に漏らしてはならない。さらに職員でなくなった後においてもこれらの秘密を保持すべき旨を職員との雇用契約に明記する等、必要な措置を講じました。

８．非常災害対策（安全管理）

→避難訓練の実施日　６月　６日[火災]・１２月２６日[火災])
２月２２日[水害・土砂災害対策訓練]　【本体、中里】
２月２０日[地震・津波避難訓練]　【下里】
→消防設備点検実施日（９月２０日・３月１５日）【いなほ作業所本体】
【下里出張所】
→消防本部立入検査（１２月）

９．虐待の防止のための措置

利用者の人権擁護・虐待防止に対応するため、責任者の設置、相談窓口の設置等苦虐待防止体制の整備、成年後見制度の利用に向けた支援、職員に対する研修その他必要な措置を講じました。

人権擁護推進員を配置し利用者・職員の人権意識の向上につなげていきました。

虐待防止責任者　生　熊　　映
虐待受付担当者　谷　　香奈代

利用者虐待防止措置の為に、虐待防止関係の研修に積極的に参加しました。

４月２３日	虐待防止・人権擁護伝達研修
７月３０日	発達の学習会
３月３０日	障害者権利条約からのメッセージ

１０．苦情解決のための措置

定期開催（隔月）している家族会で、利用者やその家族の意向を汲み取るよう努め、家族会役員が苦情受付窓口となる「ちょっと聞いてよ窓口」を設け、利用者やその家族の意向が施設に届きやすい環境づくりをすすめました。

日々の生活支援上での、利用者や家族からの希望や要望的な苦情申し出は、都度改善を図ってきました。

「苦情解決要綱」に則った案件はありませんでした。

苦情解決責任者　生　熊　　映
苦情受付担当者　谷　　香奈代
第３者委員　那智勝浦町役場福祉課福祉厚生係

１１．家族会の運営

開催日（１１月８日・３月２８日）　２回開催
※５月、７月、９月、１月は新型コロナ感染予防の為中止となりました。

１２．職員（支援者）の援助技術の向上

（1）各種会議により、職員間のコミュニケーションを充実させ、支援方針の共有と遵守に務めました。

・職員会議の実施（月２回）	→２３回開催
・販売促進会議　（月１回）	→１２回開催
・給料ポイント評価会議の実施（年１回）	３月
・ケース会議の実施（適時）	
・給食会議の実施（月１回）	→１２回開催

（2）職員研修（支援の質の向上）の実施

『内部研修』

日　程	主　催	研修内容	講　師	参加人数
４月２３日	いなほ福祉会	虐待防止・人権擁護伝達研修 身体拘束適正化のための指針	榎本職員、敷地職員 下口管理者	２２名
７月３０日	いなほ福祉会	研修報告書の説明 発達の学習会	下口管理者 田尻職員	７名
１０月２２日	いなほ福祉会	業務継続計画（ＢＣＰ）	平澤職員	５名
２月２１日	いなほ作業所	きょうされん未来カフェ 「わが町の防災は」	平澤職員	６名
１０月　８日	いなほ作業所	わされん 「運動を自分の言葉におきかえてみる」	生熊管理者 平澤主任 田代職員、湊職員	３名
３月　７日	いなほ作業所	新東障連職員研修 「きいちゃんの災害伝言ゲーム」	谷主任、平澤主任 竹内職員、湊職員 田代職員	２名

『外部研修』

日　程	主　催	研修内容	講　師	参加人数
６月２５日	新東障連	きょうされん映画 「星に語りて」視聴 「災害対策グループワーク」	各種講師	６名
２月１４日	きょうされん	わが町の防災は	各種講師	１名
２月１７日	わされん	運動を自分の言葉におきかえてみる	きょうされん 坂下　共氏	４名
３月　４日	新東障連	きいちゃんの災害伝言ゲーム	各種講師	４名
３月３０日	わされん	障害者権利条約からのﾒｯｾｰｼﾞ	きょうされん 赤松氏	１名

（３）資格の取得状況

サービス管理責任者	有資格者	４名
介護福祉士	有資格者	７名
第１種衛生管理者	有資格者	１名

１３．事務・財務管理

・会計処理の状況把握を定期的に実施しました。
・請求業務の効率化を図りました。（クラウドソフトによる請求）

１４．その他の業務

（１）きょうされん・わされんの運動

運営委員会、５ブロック会議、組織部会議、事業部会議等へのＷＥＢ会議での参加を行いました。

（２）和歌山県自立支援協議会

就労部会での参加。

（３）地域との協力

地域行事等への積極的な参加に務めましたが、新型コロナウィルスの影響でほとんどの行事が中止となりました。

【来年度に向けた課題（提供サービスの不十分な点）】

・「個別支援計画」に基づく支援の充実
・製パンの売上げアップ
・ＢＣＰ（事業継続計画）の確立